学校番号	1101

令和２年度　理科

教科	理科	科目	生物	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	「高等学校　改訂生物」（第一学習社）						
副教材等	「改訂スタディノート　生物」（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生物基礎から２年連続となり、受講する生徒の顔ぶれも変わりません。そのため初めのうちはあまり新鮮味を感じられないかもしれませんが、授業内容はかなりレベルアップすることになるので、油断しないように授業に取り組んでください。
実験も生物基礎でおこなったものより難易度のやや高いものを取り入れていきます。

２　学習の到達目標

理数・文理コースの本来の設置目的である「生物系学科・看護・医療方面への進学」を目指す人の進路実現を視野に入れて授業をおこないます。そこで週に１回は問題演習を通して、校内のテスト対策のみならず、他校の生徒と互角に争えるような学力レベルを目標に置きます。
さらには成績にとらわれずに、生物・生命について平素から考える習慣付けを理想に掲げたいと思います。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c: 実験・観察の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	いろいろな生命現象について関心をもち、意欲的に探求しようとするとともに、科学的な見方や考え方を習得している。	いろいろな生命現象の中に問題点を見いだし探求する過程を通して、科学的な思考能力を身に付け、到達した考えを的確に表現している。	いろいろな生命現象に実験や観察を通してふれ、基本操作を習得するとともに、データの記録・処理能力を高めて自然現象を科学的に探求する技能を身につけている。	いろいろな生命現象について、やや高度な概念を理解し、最新の生物学の状況にもふれて知識を身につけている。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述	学習状況の観察 ワークシートの記述 小テスト 定期考査の結果	学習状況の観察 ワークシートの記述 実験・観察の記録 小テスト 定期考査の結果	学習状況の観察 ワークシートの記述 小テスト 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	生命現象と物質、生殖と発生	細胞と分子 代謝 遺伝情報の発現 生殖と発生	○	○ ○	○	○ ○	a:細胞と分子について関心をもち、科学的な見方や考え方を身につけている。 b:いろいろな代謝、遺伝情報の発現について考察し、的確に表現できる。 c:酵素反応、呼吸、光合成といった基本的な代謝を化学反応としてとらえながら実験・観察を通して基本操作を習得し、過程や結果を的確に記録・整理できる。 d:細胞と分子、遺伝情報の発現について化学の知識も利用して十分に理解し、知識を身につけている。	学習状況の観察 ワークシートの記述 観察・実験の記録 小テスト 定期考査の結果
後期	生物の環境応答、生態と環境、生物の進化と系統	動物の反応と行動 植物の環境応答 生物群集と生態系 生命の起源と進化 生物の系統	○ ○	○	○	○ ○	a:動物や植物が種々の刺激や環境の変化に対する反応について関心をもち、科学的な見方や考え方を身につけている。 b:生物基礎で学んだ生態系の知識を拡大してより深く考察し、的確に表現できる。 c: 後期は実験室で行える実験とはなじまない単元も多く、生物基礎の範囲で実施できなかった基礎的な実験を行いそれらを通して基本操作の習得と記録や整理能力を高める。 d: 生命の起源と進化、生物の系統について理解し、知識を身につけている。	学習状況の観察 ワークシートの記述 観察・実験の記録 小テスト 定期考査の結果

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。